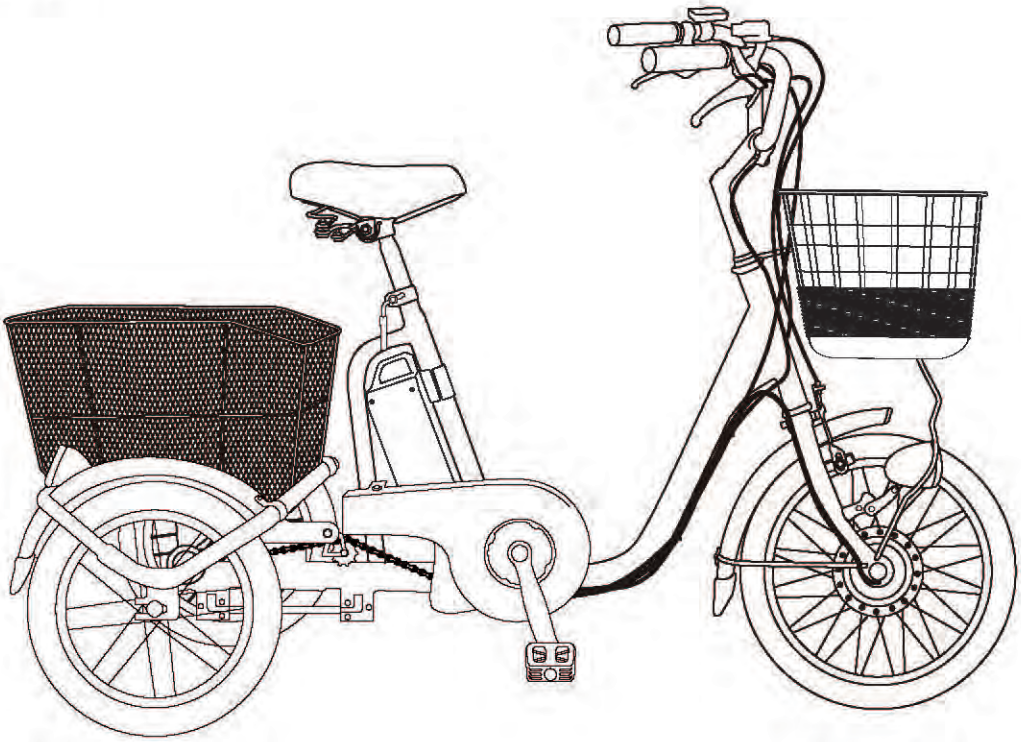
必ず保管してください

BEPN18-Ver1.3

電動アシスト三輪自転車

取扱説明書

保証書



このたびは、電動アシスト三輪自転車をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
安全、快適にお乗りいただくため、本製品をお使いいただく前に必ず、この取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも取り出せるところに保証書とともに**大切に保管**してください。電動アシスト三輪自転車を他人に譲る場合は、次のお客さまのためにこの取扱説明書もお渡しください。

【ご使用にあったてのご注意】

電動アシスト三輪自転車には運転免許証は不要ですが、普通の自転車とは異なる部分があります。正しい使用方法をご理解の上、安全で快適なサイクルライフをお楽しみ下さい。また本自転車は、日常生活用として設計されています。業務用としてはお使いにならないで下さい。

● 品質・性能の向上およびその他の事情により、予告なく仕様変更をおこなう場合があります。

もくじ

はじめに

1.電動アシスト三輪自転車の特長 …2
電動アシストとは ……2
走行できる距離の目安 ……2
2.各部の名称 ……3
3.付属品 ……3
4.組み立てと調整 ……4
1.箱から出す ……4
2.ハンドルの調整 ……4
3.ブレーキの確認 ……4
4.スイングレバーの確認 ……5
5.サドルの高さ調整 ……6
6.正しい姿勢 ……6

電動アシスト機能について

1.バッテリー残量確認 ……7
2.アシストモードについて ……8
3.ライトについて ……8
点灯のしかた ……8
照射角度の調整 ……8
4.充電のしかた ……9
1.バッテリーの取り外し ……9
2.バッテリーと充電器の接続 ……10
3.バッテリーの取り付け ……10
バッテリーについて ……11
リチウムイオン電池のリサイクルについて

乗る前に

かならず乗車前に点検しましょう …12

正しい安全な
走行をするために ……13

乗り方と注意 ……17

さあ、乗りましょう ……18

乗ったあと

1.停止、駐輪、施錠について ……18
鍵のかけかた ……19
ロックの解除 ……19
2.日常の手入れについて ……19
3.注油 ……20
4.保管について ……20

安全上のご注意

自転車 ……21
バッテリー、充電器 ……26

故障かな？と思ったら

1.三輪自転車について ……28
2.充電器、バッテリーについて ……30

こんなときどうする？ ……31

防犯登録について ……32

TSマークについて ……32

品質保証規定 ……33

品質保証書及び
自転車販売証明書 ……34

はじめに

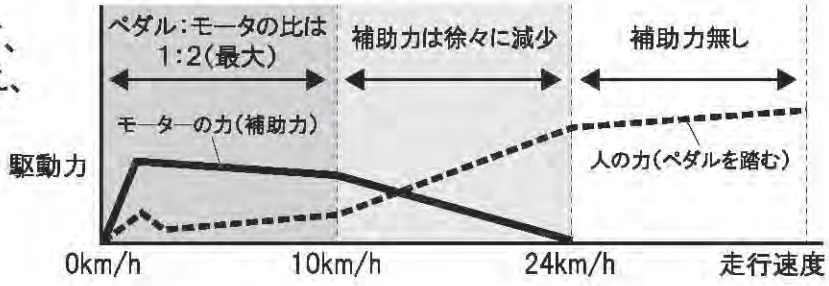
1.電動アシスト三輪自転車の特長

お買い求めいただいた三輪自転車は、電動補助（アシスト）システムが付いた三輪自転車です。電動アシスト三輪自転車は普通の自転車とは異なった部分があります。
この取扱説明書をよくお読みいただき正しく、安全、快適にお乗りください。

電動アシストとは

人がペダルを踏む力に応じて、モーターの補助的な力を加え、三輪自転車の走行を助けてくれるシステムです。

【アシスト補助力のイメージ】



ただし、次のようなときは電動アシストが働きません。

●速度が24km/h以上のとき
速度が24km/h以下でも平地などのペダルの負荷が少ない道路では電動アシストが働かない場合があります。

●ペダルの回転を止めているとき

●バッテリー残量がなくなったとき
バッテリー残量がなくなると電動アシストは働きませんが、普通の自転車として走行できます。

走行できる距離の目安

走行できる距離（1回の充電）
条件：新品のバッテリー、温度25℃、平坦な道での走行、無風状態、車載質量65kg（乗員および荷物を合計した質量）、タイヤ側面に記載の標準空気圧

バッテリー容量	走行距離（中モードの場合）
5.8Ah	約25km

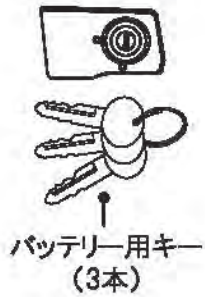
●走りかた、道路状況、気候などにより1回の充電で走行できる距離は異なります。特に整備状態（タイヤの空気圧など）、積載質量の増加や上り坂が多い場合は、走行できる距離が短くなります。

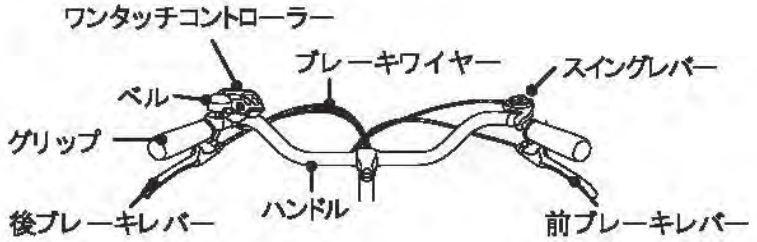
●バッテリーの特性上、冬期は走行できる距離が短くなります。

●バッテリーの特性上、充電回数の増加に従い、1回の充電で走行できる距離が短くなります。

●走行距離はあくまでも目安で、1回の充電による走行距離を保証するものではありません。

2.各部の名称



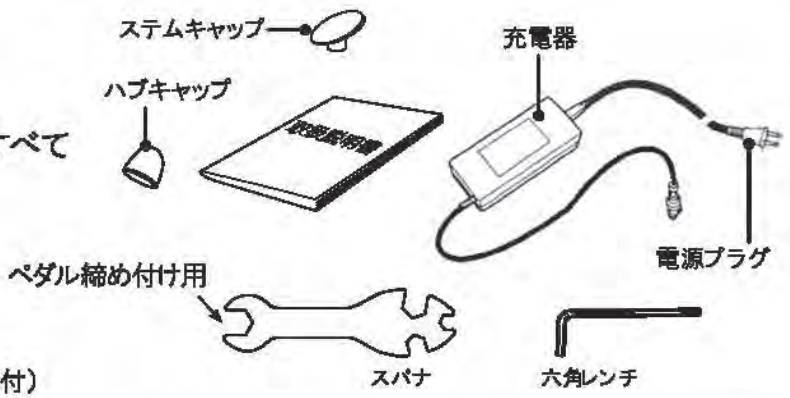


サドル
フロントバスケット
ステム
サドルポスト固定レバー
バッテリー
リアリフレクタ
ブレーキシュー
フレーム
カギ
ライト
★
リム
スポーク
チェーン
ペダル
タイヤ(前)
タイヤ(後)
モーターユニット
ドライブシャフト

3.付属品

三輪自転車本体の他に下記のものがすべて含まれていることをご確認ください。

- ●取扱説明書兼保証書(本書)
- ●充電器
- ●簡易工具2具　(スパナ、六角レンチ)
- ●ハブキャップ　(★後輪の両端ナット部に取付)
- ●ステムキャップ (ステムのネジ穴部に取付)



★の部分に右図のような緩衝キャップがついている場合は、輸送時の保護カバーですので、取り外してご使用ください。

4.組み立てと調整

① 箱から出す

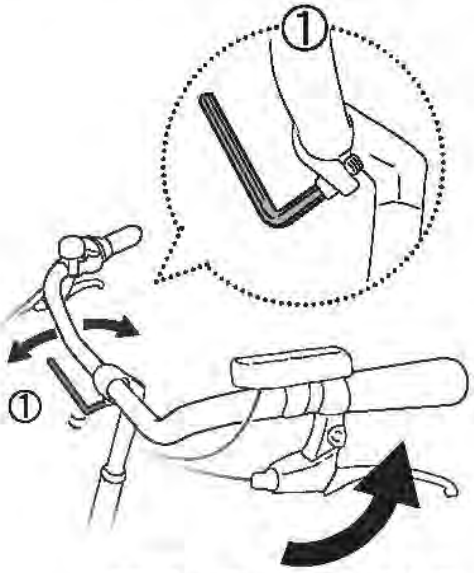
箱を開けるときは、ホッチキスに気を付けて開封して下さい。
箱を開けて自転車を取り出す前に、ダンボールからホッチキスの針をはずして下さい。
（箱は、自転車組み立て後に問題がないことを確認して処分して下さい。）
備品を確認をした後、充電を始めて下さい。 ※充電のしかたはP9参照

② ハンドルの調整

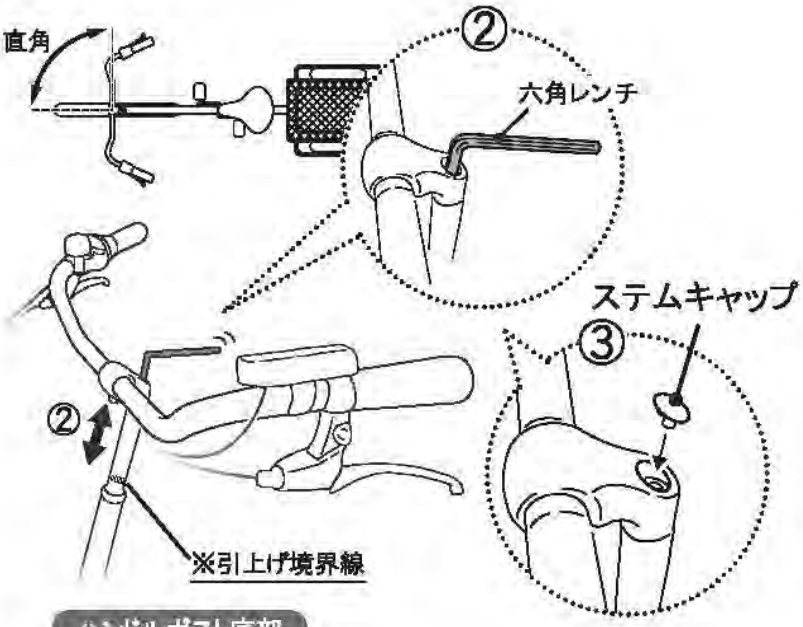
①六角レンチでステム下のボルトを緩め、ハンドルの角度を合わせて、
ステム下のボルトを固く締めます。

②ハンドルをお好みの高さ（引上げ境界線※が隠れる位置）に合わせ、ハンドルが前タイヤに対し、
90°（直角）になるように六角レンチでステムのボルトを固く締めます。

③付属品のステムキャップをステムのネジ穴部分にはめ込みます。



下がっているハンドルを
おこします。



ハンドルポスト底部

ハンドルポストを引き抜くと図のように
部品が取り付けてあります。

※緩めすぎると固定ウスが抜け落ち、
固定出来ませんのでご注意ください。
（ウス：ハンドルを内部で固定する部品）

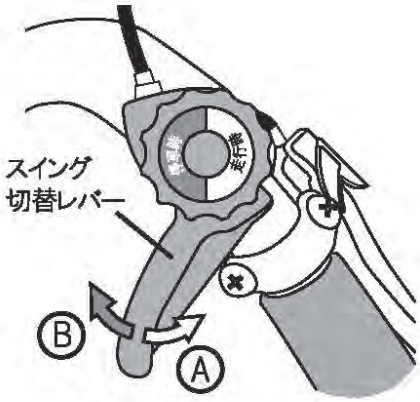
③ ブレーキの確認

ブレーキは、安全に乗るためにいちばん大切なものです。
乗車前に必ずブレーキレバーを握って、確実に効くことを
確認してください。調整が必要な場合は29ページをご参照
ください。

④ スイングレバーの確認

スイング切替レバーで、車体フレームのスイング機能を切り替えることができます。

Ⓐ 走行時/スイングする	Ⓑ 停車時/スイングしない



強制

切替えを行う際には、必ず平坦な路面に停車した状態で操作を行ってください。走行中に操作をすると、急に機能が切り替わり、重大な事故や部品破損につながる場合があります。

走行時

スイング機能を使用した状態になります。
スイングすることで、カーブも大回りせずスムーズに曲がることができます。

停車した状態で、スイング切替レバーをⒶ方向「走行時」に回します。フレームが左右に揺れる(スイングする)ことを確認してご乗車ください。
※初めは、スイングの揺れに慣れるまで時間がかかる場合もございます。バランスをとれるまで、公園などの公道ではない平坦な広い場所で練習することをおすすめします。

強制

- 走行の際には、必ず「走行時」の状態でご使用ください。
- 走行中は、カーブを曲がる際に必要以上に車体を左右に傾けて走行しないでください。自転車が転倒して、思わぬケガの原因となる場合がございます。

停車時

スイング機能を固定した状態になります。
(車輪が固定されるわけではありません。)

停車した状態で、スイング切替レバーをⒷ方向「停車時」に回します。
フレームの揺れ(スイング)がなくなったことを確認してください。
※構造上、「停車時」の固定状態でも多少のあそびがあります。

強制

「停車時」で走行すると、路面・傾斜などの影響でハンドル操作や走行性能が悪くなり、思わぬケガや部品破損の原因となる場合があります。
走行の際には、必ず「走行時」の状態でご使用ください。

⑤ サドルの高さ調整

①サドルポスト固定レバーを約2～3回転反時計回りに回し、ゆるめます。

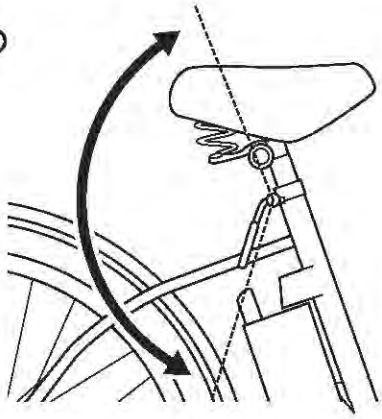
> ⚠注意　サドルポスト固定レバーを充分にゆるめずに高さ調節をおこなうと、シートポストを傷付けることがあります。

②サドルを上下に動かして高さを調整し、サドルを持ってサドル固定レバーを時計回りに回して締め付けます。

> ⚠警告　引き上げ限界線以上に引き上げないでください。
>
> 引き上げ限界線がフレームパイプにかくれる位置で調整して下さい。

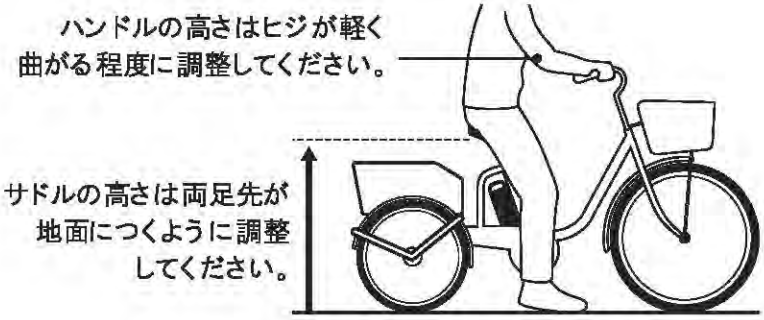
③締め付け後、サドル固定レバーが右図の範囲内の位置になるように収納してください。

④サドルを上下左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。



⑥ 正しい姿勢

安全に乗車していただくため、下図のような姿勢になる位置にハンドルとサドルを調整してください。



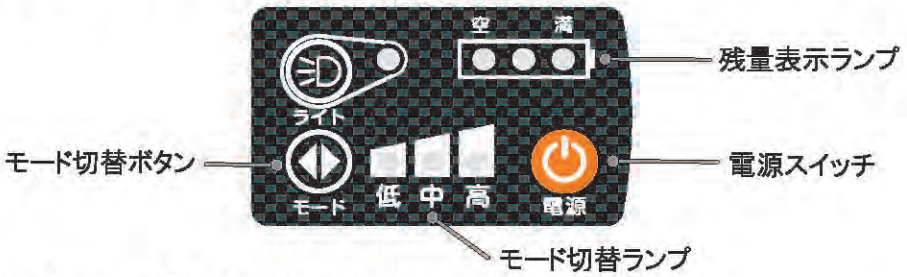
電動アシスト機能について

1.バッテリー残量確認

①バッテリーが確実に取り付けられていることを確認します。
②サドルにまたがります。

⚠警告	けり乗りはしないでください。転倒や接触事故によるケガのおそれがあります。 必ずサドルにまたがってから発進してください。 ●けり乗りとは…片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた。

③ペダルを踏まずに電源スイッチを押し、電源を『オン』にします。残量表示ランプが点灯します。



④残量表示ランプの表示状況を確認します。
残量表示ランプは下表のようにバッテリー残量の目安を3段階で表示します。

残量表示ランプの表示状況を確認し、必要に応じて充電してください。

バッテリー残量	残量表示ランプの表示状況	目安
●●●	残量　LEDランプ3つとも点灯	電動アシスト 走行できます。
●●○	残量　LEDランプ　2つ点灯	
●○○	残量　LEDランプ　1つ点灯	そろそろ充電しましょう。 バッテリー残量が残りわずかな状態です。
●○○	残量　LEDランプが点滅	充電してください。 電動アシスト走行できない状態です。 電動アシスト走行はできませんが、普通の自転車として走行できます。

残量表示ランプが消灯していく間隔は、バッテリーの状態、走りかた、道路状況などにより異なります。走行中電池残量点灯ランプが減り、停止中に点灯表示が戻ることがありますが、故障ではありません。
電源を入れて5分以上放置するとエコモードが働き、自動でOFFになります。

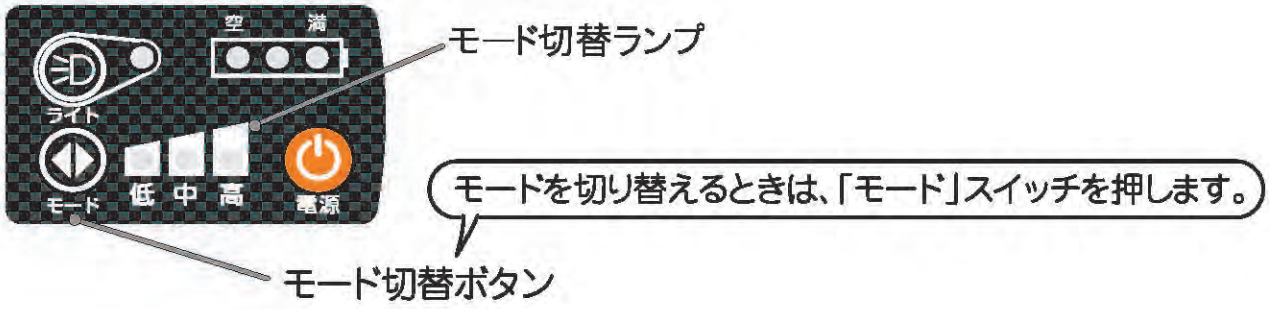
⚠注意	バッテリーの残量が少ない状態(残量表示が1つ点灯状態や点滅)のときは のぼり坂で乗車しないでください。アシストが切れたときにバランスを崩して 転倒によるけがの恐れがあります。

☺お願い	お客様が実際に走行される条件と残量表示ランプの表示状況を確認し、 電動アシスト走行できる距離の目安にしてください。

2.アシストモードについて

状況に応じてアシストモードを切り替えることができます。

※電源を入れた時は「中」にセットされています。



低 モード	「アシスト力」を快適かつ効率良く切り替えて走りたい場合におすすめ ・ 平地などでペダルを踏む力が少なくてもよい場合に、アシスト力を抑えて節電走行します。
中 モード	平地中心に一定のアシストで走りたい場合におすすめ ・ 人の力を「1」に対してモーターの力が最大「1」の割合の補助力で走行します。 ・ 広範囲にお使い頂ける標準的なアシストモードです。
高 モード	上り坂が多いコースなど、力強い「アシスト力」で走りたい場合におすすめ ・ 人の力「1」に対してモーターの力が最大「2」の割合の補助力で走行します。 ・「高」は、「中」よりもペダルを心地よく回せるようにアシスト力をアップしています。このため、上り坂など力強いアシスト力が必要なときはより楽に走行できますが、電力の消費量は多くなり走行距離は短くなります。(「中」に対して約60～70%の走行距離となります)

お知らせ　設定位置は一般的な使用例です。
道路状況や体調などに応じて、設定位置を選択してください。

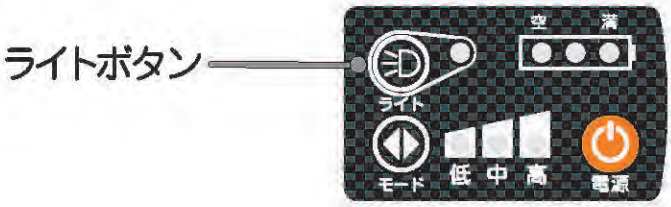
3.ライトについて

点灯のしかた

●「ライト」スイッチを押すとライトが点灯・消灯状態に切り替わります。(電源スイッチ「入」の時)

照射角度の調整

●三輪自転車の前方約10mの路面を照らすように調整してください。



⚠注意	夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認してください。 走行中アシストが切れた場合ライトも消灯します。

4.充電のしかた

バッテリーは工場出荷時、満充電されていませんので、ご使用になる前に充電してください。

充電時間の目安(通常充電)

● 5.8Ah　約3.5時間

※残量表示ランプが1つになってから充電した場合

充電前のバッテリー状態や外気温などにより異なりますが、残量表示ランプが1つになってから充電した場合の充電時間は約3.5時間です。

☆ アドバイス
- ●バッテリー残量が残っているときは充電時間が短くなります。
- ●使用直後やバッテリーの温度が高い場合、充電開始までに1～2時間かかることがあります。

※ご購入後初回の充電は充電時間が多少長くなることがあります。
※バッテリー横のボタンを押すと、インジケーターランプによるバッテリー 残量が確認できます。

お知らせ　充電中は、充電器およびバッテリーが多少熱くなりますが、異常ではありません。

●電源(コンセント)がある充電場所(下記の条件をみたすところ)を決めます。

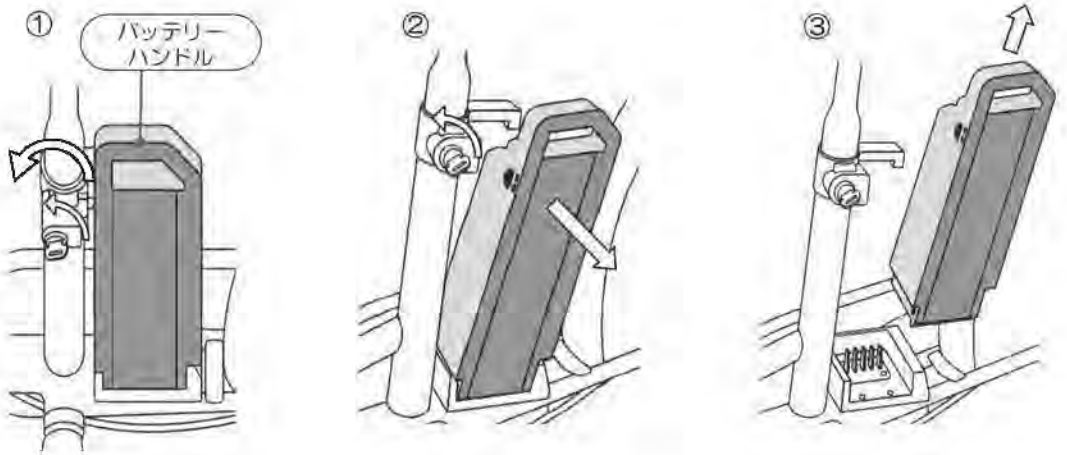
- 風通しがよく湿気の少ないところ
- 平たんで安定のよいところ
- 直射日光や雨つゆの当たらないところ
- 周囲の温度が0℃～30℃のところ
- 水のかからないところ
- 幼児やペット等がいたずらをしないところ
- 高温になる場所では行わないで下さい。またバッテリー、充電器の保管もしないで下さい。

⚠注意
- ●テレビやラジオの近くで充電しないで下さい。雑音が入る場合があります。
- ●直射日光のあたる場所、室温が35℃以上の場所、湿度の高い場所では充電また保管はしないでください。
- ●必ず屋内で充電してください。野外では行わないでください。

① バッテリーの取り外し

① 鍵をシリンダーに差込み、反時計回りに回します。
(※開錠するまで、回して手を離さないで下さい。)
② 鍵を回した状態のまま、バッテリーを手前に倒します。
③ そのまま上に引き抜くように、本体から取外します。

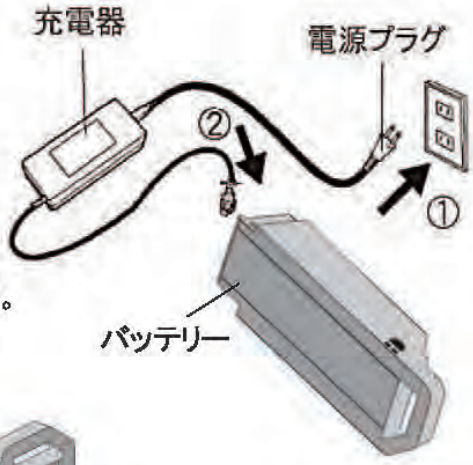
⚠注意
バッテリーを取り外すときは必ずバッテリーの電源を切り、ハンドルを持ちながら鍵を回してください。鍵を先に回すとバッテリーが地面に落ち、割れてしまう可能性があります。
※鍵を忘れずに抜き、保管してください。



② バッテリーと充電器の接続

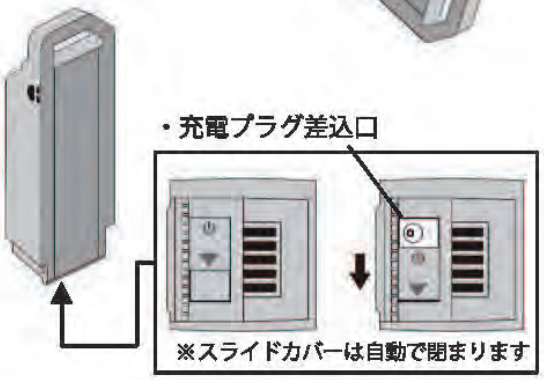
①電源プラグをコンセントに差し込みます。充電器本体のランプが緑色に点灯します。

> ⚠注意
> 充電器のプラグをコンセントに差込む前にバッテリーと接続すると、多少火花が出る場合があります。必ず右記①②の手順で作業してください。



②充電プラグ差込口はバッテリー本体底面にあります。
底面にあるスライドカバーを矢印の方向にスライドさせて、充電プラグをバッテリーの充電端子に、しっかりと奥まで差し込んでください。充電器本体のランプが赤色に点灯します。

> ⚠注意
> 差込みがゆるいと充電できない場合があります。
> また、点灯色が切り替わるのに5秒ほどかかることがあります。
> 必ず色が切り替わったことを確認してください。
> ランプが異常点滅している場合は、コンセントを抜いて再接続してください。再接続後も異常点滅が繰り返す場合は、使用を中止してください。



充電器のＬＥＤランプの表示

赤ランプ	充電中
緑ランプ	充電完了
その他点滅	異常検知

③充電器のランプが赤色から緑色に変われば、充電完了です。
電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーから充電器を取外します。

③ バッテリーの取り付け

※取付けるときにはキーを使用する必要はありません。

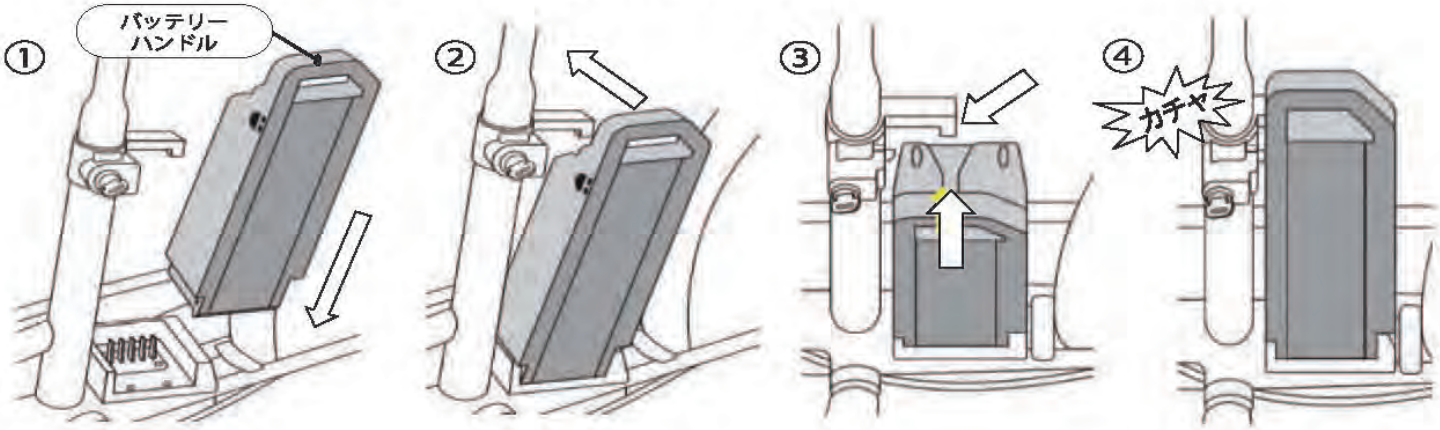
●バッテリー取付け部に異物がないか、濡れてないかを確認してください。

①バッテリーハンドルを持ち、バッテリー受けの手前側の溝にバッテリー本体を合わせて斜めに差し込みます。

②バッテリーを矢印の方向に押します。

③このとき、バッテリー上部の溝と本体側のガイドを合わせるようにしてください。

④バッテリーを正常に取付けると、自動的にロックします。



☺ お願い
バッテリーの取付け後、確実にロックしているかバッテリーを手前に引き、確認して下さい。

バッテリーについて

バッテリー交換目安　バッテリーには、寿命があります。

●バッテリー交換時期の目安として、約300～600回の充電の繰り返しで交換時期に至る場合が多いですが、充電回数が300回未満の場合でもご使用や保管の条件により、1～2年程度の使用期間で一回充電あたりの走行距離が著しく短く（新品時のや約半分以下に）なる場合があります。

※冬季は、バッテリーの特性上、走行できる距離が短くなります。
バッテリーを温度15～25℃の室内で保管してからご使用いただくと症状を軽減することができます。

※ペダルを強く踏み込む状態で走行する機会が多かったり、高温になる駐車場でバッテリーを保管すると、通常より少ない充電回数や短い期間でバッテリーが消耗し、寿命となる場合があります。

※バッテリーは、消耗品です。「バッテリー交換時期の目安」と保証期間は関係ありません。

●バッテリー交換は有料です。

バッテリー交換時期は、使用状況、充電の仕方などにより異なりますが、新品時より著しく短く（約半分以下に）なったときが交換時期です。

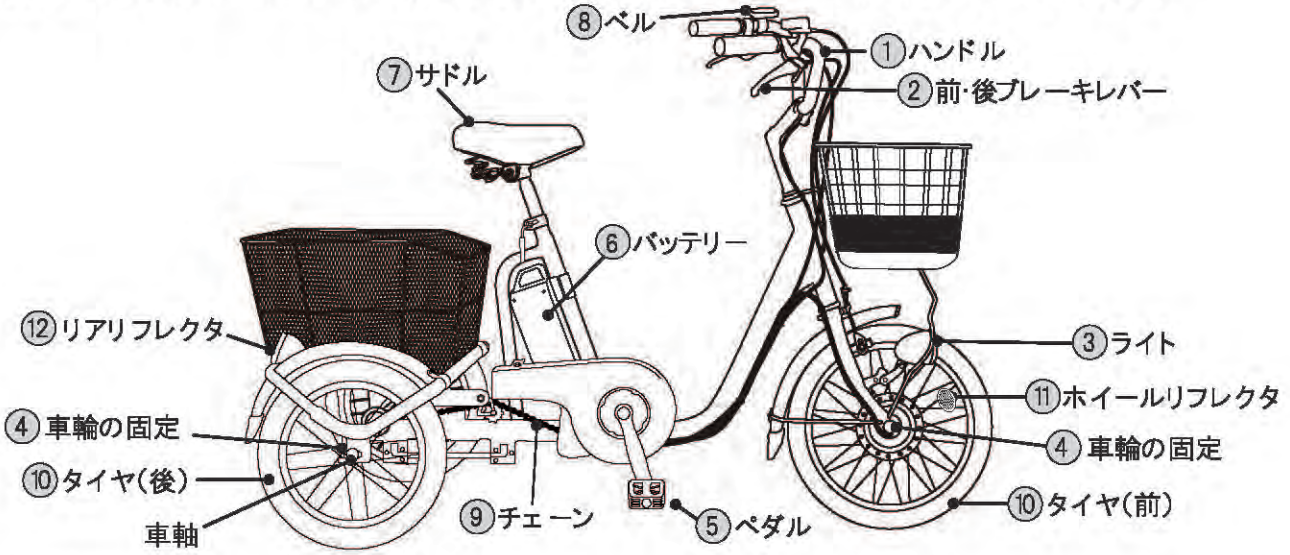
リチウムイオン電池のリサイクルについて

この商品にはリチウムイオン電池を使用しています。
リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
バッテリーが不要になった場合は、保証書記載のサポートセンターまでご相談ください。電池のリサイクルにご協力をお願いします。

乗る前に

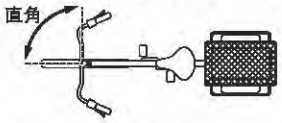
かならず乗車前に点検しましょう

安全に乗車していただくため、乗車前に下記の点検を実施する習慣をつけましょう。



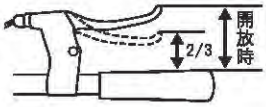
①ハンドル のがたつき

ハンドルを上下左右にゆすり、がたつきがないか点検しましょう。また、ハンドルが前タイヤに対し90°(直角)になっているか点検します。



②前・後ブレーキレバー の握りしろ

ブレーキレバーが開放時の約2/3の位置でブレーキが効きはじめることを点検します。



③ライト の点灯

汚れや損傷がないか点検します。汚れはふき取り、損傷している場合は交換してください。ライトが点灯するか点検します。

④前後車輪 の固定状態

タイヤをゆすり、車輪にがたつきがないか点検します。

⑤ペダル のがたつき

ペダルをゆすり、がたつきがないか点検します。

⑥バッテリー の取り付け状態

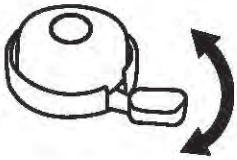
確実に取り付けられていることを点検します。

⑦サドル のがたつき

サドルを上下左右にゆすり、がたつきがないか点検しましょう。

⑧ベル の鳴り具合

ベルのノブを指ではじいてベルが鳴るか点検します。



⑨チェーン の張り具合

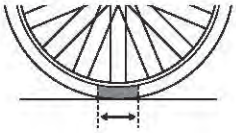
チェーンの中央部を持って上下に動かし、その差が5～25mmあれば適正です。

※チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり危険ですので、すぐに販売店やお近くの自転車店にて調整してください。

⑩前後タイヤ の摩耗、損傷、空気圧

摩耗していないかタイヤにくぎなどがささっていないか点検します。空気圧が減少しているとアシスト走行距離に大きく影響します(空気入りタイヤ)。

標準空気圧
タイヤ側面に記載



接地部: 約 12cm

⑪⑫ホイールリフレクター、リアリフレクタの汚れ、損傷

汚れ、損傷がないか点検します。汚れはふき取り、損傷している場合は交換してください。

> ⚠注意　点検で異常があった場合や転倒して異常があった場合は、乗車をやめてお近くの自転車店またはカスタマーサービスにご相談ください。

正しい安全な走行をするために

⚠ 警 告

2015年6月より改正道路交通法が施行されました。
違反すると、罰則を受けることがあります。自転車は道路交通法上、軽車両として扱われます。道路標識や信号などを守ることはもちろんですが、お互いに迷惑のかからないよう交通ルールを必ず守り、安全に正しく乗りましょう。

1 発進のしかた

- 見通しのいい場所で、周囲を確認してから発進しましょう。

2 走行する場所

- 車道のいちばん左側を走るようにしましょう。
- 歩道は歩行者優先です。歩道では車道よりを徐行して走行します。
- 標識に従って走行しましょう。

	歩行者専用 自転車に乗車して通行することは原則できません。自転車から降りて通行しましょう。		**自転車及び歩行者専用** 自転車と歩行者が通行できる道路です。歩行者を優先し、安全に走行しましょう。
	自転車専用 自転車が通行できる道路です。周囲の状況を常に確認しながら、安全に走行しましょう。		**普通自転車専用通行帯** 自転車の通行のために、車道の左端に設けられる通行帯です。原則としてこの部分を通行しなければいけません。
	自動車専用 自動車以外の車両は通行できません。事故につながるので絶対に立ち入らないでください。		**自転車一方通行** 自転車は矢印の示す方向にのみ通行することができます。反対方向からの通行(逆走)はできません。

③　交通標識を守りましょう

自転車は道路交通法によって「軽車両」と位置づけられている車両です。

自動車と同様に交通標識を守って走行しましょう。

●一時停止しましょう

一時停止の標識があるときは必ず一旦停止しましょう。

また、狭い道路から大通りに出るとき、横断歩道や踏み切りを渡るとき、歩行者の妨げになるようなときなどは必ず一時停止して安全を確かめてから走行しましょう。

●横断するには

道路を横断したり交差点を渡る場合、近くに自転車横断帯があるときは、そこを通らなければなりません。

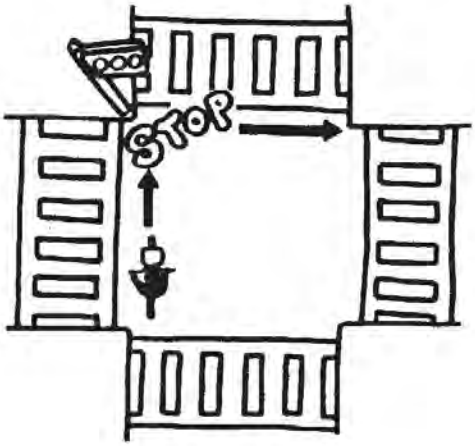
自転車横断帯	横断歩道 自転車横断帯	横断歩道
自転車横断帯がある場合には、原則として横断歩道ではなく自転車横断帯を通行しなければなりません。	歩行者は横断歩道を、普通自転車は自転車横断帯を通行しなければなりません。	横断歩道は歩行者優先であるため、横断歩道を渡る歩行者がいる場合には、歩行者が渡りきるまで停止して待たなければなりません。

横断歩道では、一度止まって歩行者を優先させてください。また、自転車が通行可能な歩道を走行するときは徐行し、歩行者の妨げにならないよう気を配りましょう。

④　交差点の通りかた

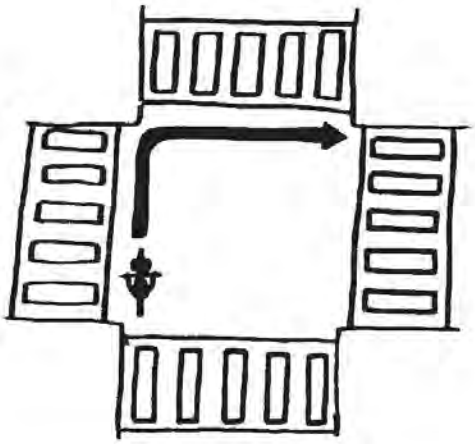
●信号のある交差点では

正面の信号が青のとき、直進と左折ができます。右折の場合は、交差点の向こうまでまっすぐ進み、一度止まって曲がる方向の信号が青になってから進みます。



●信号のない交差点では

左折するときは、後方に注意しながら早めに合図をし、できるだけ左によって十分スピードを落として曲がりましょう。右折するときは、できるだけ左によって交差点の向こう側までまっすぐ進み、十分スピードを落としてから曲がりましょう。



⑤　周囲の安全確認

交差点は事故が起こりやすいところです。
周囲を十分に確認して安全を確保してから横断しましょう。
また、車の左折時に巻き込まれる事故が多発しています。車からの死角は数多くあります。
危険と感じたときは、無理しないことがとても重要です。

子どもの飛び出しにも注意しましょう。
つぎの道路標識が表示されている近くには学校、幼稚園、保育所等があります。徐行運転して、子供の飛び出しなどに気を付けましょう。

⑥　危険行為はやめましょう

- 信号無視
- 指定場所の一時不停止
- 遮断踏切への侵入
- 通行禁止違反
- 歩道における車両義務違反(徐行違反)
- 歩道通行時の通行方法違反
- 通行区分違反
- 路側帯通行時の歩行者の通行妨害
- 交差点安全進行義務違反
- 交差点優先者妨害等
- 環状交差点安全進行義務違反等
- 制御装置（ブレーキ）不良自転車運転
- 安全運転義務違反
- 酒酔い運転
- 妨害運転

※上記の危険行為をくり返すと、自転車運転者講習を命ぜられることがあります。

その他の危険運転

- スピード超過
- イヤホンを装着して走行
- 2人乗り走行
- 逆走
- 夜間無灯火走行
- ながら運転(スマホ操作)

乗り方と注意

●十分に練習してからご使用ください

三輪自転車は構造上、二輪自転車とは全く乗車感覚が違います。安全な場所にて十分練習してからご使用ください。路面の傾斜によって走行中にハンドルを取られることはめったにありませんが、左右のバランスをとりながらの走行が必要です。
※スイングレバー「停車時」での走行は大変危険です。
走行する際には、必ずスイングレバーを「走行時」に切り替えてご使用ください。

●スピードの出しすぎ、急なカーブには注意してください

三輪自転車は二輪自転車に比べて車幅も広く車重も増すため、バランスを崩し転倒によるケガの恐れがあります。歩行者や障害物には十分に注意して、低速走行を心掛けて下さい。転倒の恐れがありますので、急なカーブを曲がることはできません。一旦、ペダルをこぐのをやめ、ハンドルの向きを変えゆっくり方向転換をして下さい。

●安全な道を選んで走行してください

自転車は、道路交通法では「軽車両」とされておりますので、歩道と車道の区別があるところでは、車道の走行を努めて頂きますようお願い致します。日本の道路事情はバリアフリーの遅れから、歩道と車道での段差や歩道自体の傾斜など転倒しやすい場所があります。ハンドルを取られたりふらついたりしないように、安全な道をお選びのうえご利用願います。

●アシストモードでの走行は注意を守って乗車ください

・けり乗りはしないでください。転倒や事故のもとになります。
・電動アシスト三輪自転車はペダルを踏み込むと、力強く発進しようとしますので、ご注意ください。(停車中は、ブレーキをかけてください)
坂道の手前では、ブレーキの効き具合を確認してください。
・走行時に、モーターから若干ギア音が発生することがありますが、異常ではありません。
・お客様が実際に走行される条件と残量表示ランプの表示状況を確認し、電動アシスト走行できる距離を把握してください。

⚠注意　一般の自転車にくらべモーター部分が少し重くなっていますので、駐輪時のハンドルの傾きに注意してください。発進するときは、ハンドルをまっすぐにしてください。ハンドルが横向きのままペダルを強く踏み込むと、車輪駆動の特性によりバランスを崩すおそれがあります。

●ブレーキのかけかた

後ブレーキをかけながら前ブレーキをかけてください。
・左側が後ブレーキ、右側が前ブレーキです。
・下り坂では、強くブレーキをかけっぱなしにしないで小刻みにかけてください。
・前ブレーキをかけたとき、コツコツと音がすることがありますが、性能上問題ありません。

⚠警告　前ブレーキだけのブレーキ操作はしないでください。転倒につながり大変危険です。

さあ、乗りましょう

①前後左右の安全を確認してから、しっかりとハンドルを握り、ブレーキを放します。
②ペダルを踏み込むと電動アシストが働き、発進します。
③走行中は電動アシストの作動音がしますが、異常ではありません。

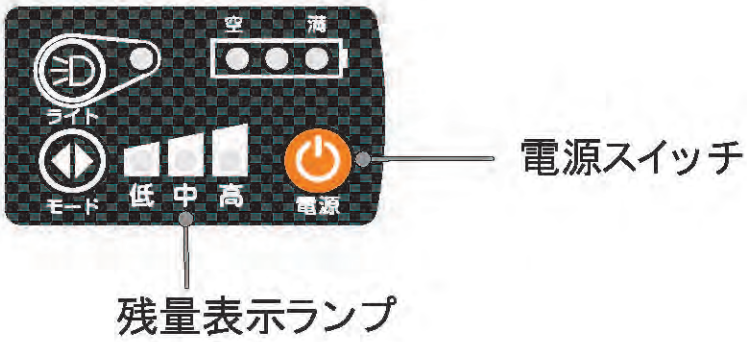
乗ったあと

1.停止、駐輪、施錠について

三輪自転車を停止させ、電源を切ってから三輪自転車を降ります。

電源の切りかた

電源スイッチを押し、残量表示ランプが消えたことを確認します。



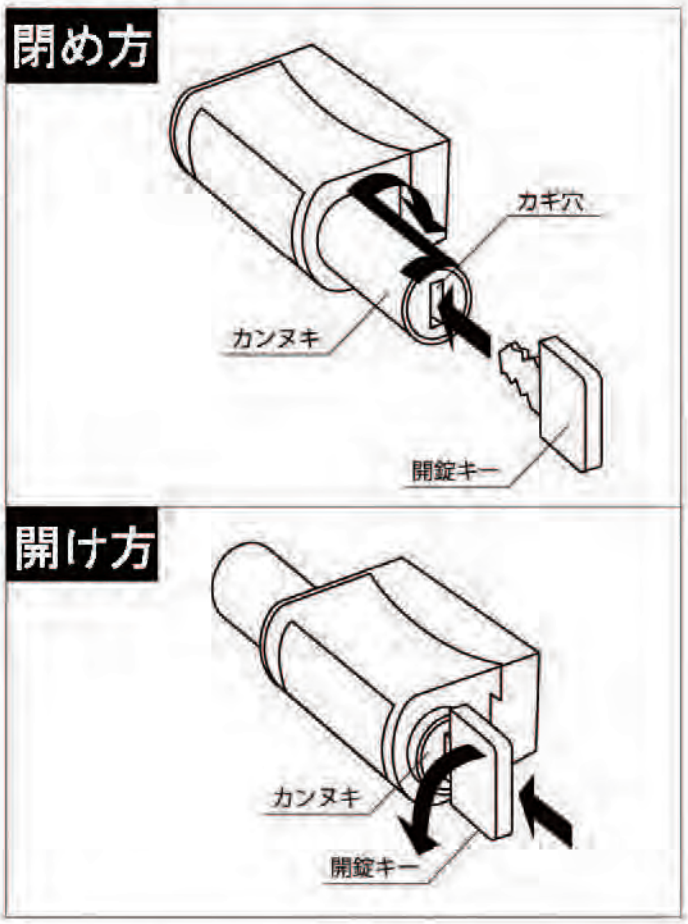
鍵のかけかた

●閉め方
開錠キーをカギ穴に差し込み、開錠キーを右に少しひねりながらカンヌキごと押し込み、突き当たったら再び右に少しひねって開錠キーを抜き取ります。

●開け方
開錠キーをカギ穴に差し込み、少し押しながら左にひねるとカンヌキが飛び出してロックが解除されます。

※開錠キーの紛失に注意して、スペアキーも大切に保管してください。

※カギの機能を保つため、定期的に市販のカギ用防錆・潤滑スプレー等でメンテナンスをしてください。



☺お願い	●盗難防止のため、必ず施錠してキーを抜いてください。 ●雨ざらしになるところには駐輪しないでください。 ●駐輪禁止の場所や人・自転車の迷惑になるところに放置してはいけません。 ●なるべく平坦な路面に止め、三輪自転車が動かないことを確認して下さい。

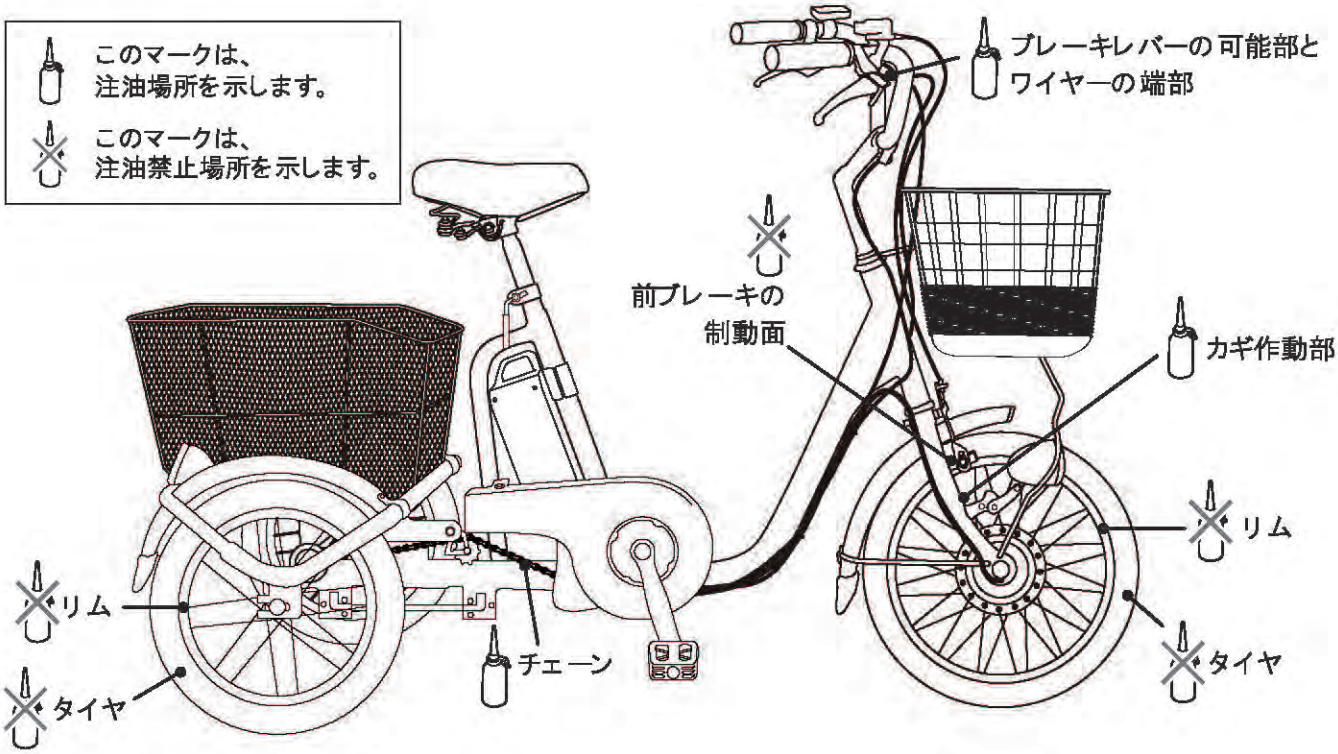
2.日常の手入れについて

●本体の汚れは、水を含ませ固くしぼったやわらかい布などで、きれいにふき取ってください。

●汚れのひどいときは、中性洗剤を浸した布でふき取り、乾いた布で洗剤が残らないようによくふき取ってください。

⚠警告	水洗いはしないでください。雨天走行で水にぬれたときは乾いた布でふき取ってください。浸水によって電気部品および配線の絶縁が劣化し、漏電など故障の原因になります。
⚠注意	シンナーやベンジン、みがき粉、アルカリ性洗剤、その他の溶剤は絶対に使用しないでください。変色、傷、変形、ひび割れの原因になります。

3.注油



☺お願い

●油の種類は、必ず、自転車用油を使用してください。
（食用油などは、硬化するおそれがあります。）
●余分な油は、乾いた布でふき取ってください。

4.保管について

①保管場所（下記の条件を満たすところ）を決めます。
- ●風通しがよく湿気の少ないところ
- ●平たんで安定のよいところ
- ●直射日光や雨つゆの当たらないところ

②電源スイッチが「切」になっていることを確認します。

③タイヤの空気が減っているときは、空気を入れます。（空気入りタイヤ）

④鍵をかけます。

盗難防止のために必ず、施錠してキーを抜いてください。

※バッテリーと前輪のカギは、それぞれ3本付属しています。
カギを紛失しないように大切に保管して下さい。

☺お願い

●雨ざらしになるところは避けて保管してください。
●長期間（1ヵ月以上）保管されるときは、バッテリーを車体からはずし、満充電にして室内の涼しい所で保管してください。また、1ヵ月ごとに充電し、再使用時は充電をしてから使用してください。

安全上のご注意

- 電動アシスト三輪自転車には運転免許証は不要ですが、普通の自転車とは異なる部分があります。
- ご使用の前に必ず、この「安全上のご注意」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度に応じて、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「危険」「警告」「注意」の3種類に区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠ 危険	── 死亡または重傷を負うおそれが大きい内容。
⚠ 警告	── 死亡または重傷を負うおそれがある内容。
⚠ 注意	── 人が損害を負ったり、物的損害の発生するおそれのある内容。

お守りいただく内容を絵や記号で説明しています。(絵・記号表示の例)

⃠ ── してはいけない行為を表しています。

❗ ── 必ずおこなっていただく行為を表しています。

●安全上のご注意(自転車)

⚠ 警告

禁止

お客さまご自身による改造はしない。また、モーターユニット、クランクセンサー(電動アシストシステム)の分解や注油もしない

部品が損傷したり、ブレーキが効かなくなって、転倒し、ケガをするおそれがあります。修理や部品の取り付けは自転車店またはカスタマーサービスにご相談ください。また、補助輪やハブステップ等も取り付けないでください。

禁止

滑りやすい靴や、かかとの高い靴などをはいて乗らない

足がペダルから外れたり、転倒によるケガのおそれがあります。

禁止

幼児を乗せない

自転車が倒れてケガのおそれがあります。

禁止

飲酒時やかぜ薬を服用したとき、体調が悪いときは乗らない

衝突や転倒によるケガのおそれがあります。

禁止

下り坂や雨の日、ぬれた路面ではスピードを出しすぎない

スリップしたり、ブレーキ性能の低下により制動距離が長くなり、転倒し、ケガをするおそれがあります。

禁止

荷物を手やハンドルに引っかけたり、ペットをつないだりして乗らない

荷物が車輪に巻き込まれたり、バランスを崩したりして転倒し、ケガをするおそれがあります。荷物はバスケットに積んでください。

●安全上のご注意(自転車)

⚠警告

禁止

2人以上で乗らない。
2人乗りは法律で禁止されており大変危険です。転倒や事故によるケガのおそれがあります。

禁止

次のような運転はしない。
手放し運転、合図以外の片手運転、傘さし運転、携帯電話使用中の運転。

禁止

走行中に手や足でライトの照射角度を調整しないでください
前方不注意となり、衝突や転倒したり、手足・靴などが車輪に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。必ず停車してからライトの角度を調整してください。

禁止

前ブレーキだけのブレーキ操作はしない
スリップで転倒によるケガのおそれがあります。

禁止

巻き込まれやすい服装では乗らない
スラックスやスカートのすそ、マフラーなどが車輪やギヤに巻き込まれ、転倒によるケガのおそれがあります。
ズボンクリップの使用をおすすめします。

禁止

滑りやすいところ(積雪、凍結した道、鉄坂の上やぬかるみなど)では乗らない。また、風の強いときも乗らない
前輪や後輪がスリップして転倒し、ケガをするおそれがあります。
この場合は、自転車から降りて、押して歩いてください。

禁止

外部の音を遮断した状態で乗らない
イヤフォンやヘッドフォンを装着した状態での使用は、周囲の状況把握ができず注意力が低下し、事故をまねく恐れがあります。

禁止

サドルやハンドルの引き上げ限界線が見える状態では乗らない
サドルやハンドルの折れや抜けにより衝突や転倒によるケガのおそれがあります。

禁止

組み立て前の三輪自転車や未調整の三輪自転車に乗らない
通常の運転ができず転倒や衝突によるケガのおそれがあります。

強制

車輪の着脱後や、サドルとハンドルの調整後は、締め付けを確認してから乗る
車輪やサドル、ハンドルが外れて転倒し、ケガをするおそれがあります。調整後は、必ず、乗る前に確認してください。

禁止

異常がある場合は乗らない
異常があるまま走行すると事故や転倒によるケガのおそれがあります。異常を発見したらお近くの自転車店またはカスタマーサービスにご相談ください。変形したり、ひび割れした部品は必ず交換してください。

注意

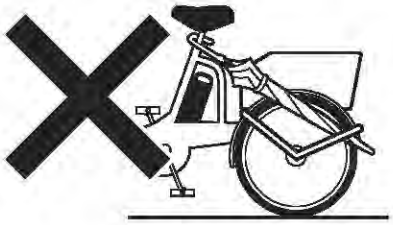
乗車するときは、自転車用ヘルメットを着用する
ヘルメットは頭部の保護のために有効です。

⚠ 警告

禁止

傘やステッキ、釣りざおなどを下げたり、差し込んだりして乗らない。また、スポークの間にポールなどを挟まない

車輪がロックして転倒するおそれがあります。



禁止

カーブを走行するときには、曲がる側のペダルを下げない

ペダルが地面と接触し、転倒によるケガのおそれがあります。

禁止

停車中にペダルを強く踏み込まない

車輪駆動の特性で発進することがあります。

強制

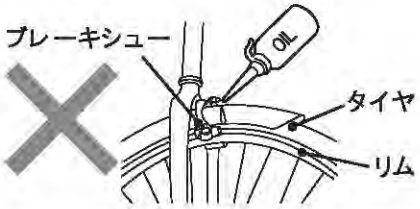
乗車前は、前後ブレーキ動作、ハンドル・車輪の固定、タイヤの空気圧などを点検する

ブレーキ動作の異常や各部のゆるみがあると、転倒によるケガのおそれがあります。また、タイヤの空気圧が適正でないと、パンクしたり、リムが破損して、転倒し、ケガをするおそれがあります。

禁止

ブレーキシュー、タイヤ、リムには絶対に注油しない

ブレーキが効かなくなり、衝突によるケガのおそれがあります



強制

自動車の横を走行するときは安全を確認する

駐車や停車中の車が急にドアを開けたり、車の陰から人や動物が出てきたりすることがあり、事故のおそれがあります。

禁止

回転している部分（車輪、チェーンなど）には手や足、物を近づけない

巻き込みや転倒によるケガのおそれがあります。

禁止

三輪自転車を走行以外の目的（腰かけや踏み台の代わりなど）に使用しない

転倒によるケガのおそれがあります。

禁止

走行中はリモコンのスイッチを操作しない。表示ランプ等を注視しない。

前方不注意となり衝突や転倒によるケガ・事故の恐れがあります。
停車した状態で操作してください。

禁止

スピードを出し過ぎたまま、急ハンドル操作をしたり、急カーブを曲がったりしない

スリップや転倒によるケガのおそれがあります。

強制

バッテリーを本体から外すときや持ち運びをするときは、ハンドルを持つ

落ちて足などにケガをするおそれがあります。

禁止

坂道で駐停車をしない

坂道で駐停車をすると思わぬ事故が発生する恐れがあります。平坦で安全な路面に駐停車し施錠してください。

●安全上のご注意(自転車)

⚠警告

強制

使用を開始してから2カ月以内に必ず点検を行ってください

●ご使用開始から2ヶ月以内に最寄りの自転車店等で点検を受けて下さい。上記期間に各部のネジがゆるむことがあります。
●わからないときは、カスタマーサービスにご相談ください。

強制

荷物を載せるときは積載条件を守る

接触やバランスをくずし転倒によるケガのおそれがあります

●フロントバスケット
大きさの限度:バスケット内に収まる大きさ

●リアバスケット
大きさの限度:バスケット内に収まる大きさ

※幼児、子供を乗せないでください
※ペット等は、乗せないでください

強制

走行中に異音が発生したり、三輪自転車が転倒し、水に浸かったりするなどの異常が発生した場合は、ただちに使用を中止し、自転車店またはカスタマーサービスに相談する

そのまま使用を続けると事故や故障の原因になります。

強制

停車しているときは、ペダルには足を乗せず前後輪ブレーキをかける

ペダルに足を乗せるとアシストが作動することがあります。停車しているときは、必ず、前後輪ブレーキをかけ、ペダルに足を乗せないようにしてください。

強制

1年ごとに以下の点検・交換を行ってください

ブレーキが効かなくなったり、スリップしやすくなったりして転倒のおそれがあります。
●ブレーキワイヤ
異常がなくても2年に1回は、交換してください。
●ブレーキレバー
遊びが大きいときは、すぐに調節をしてください。
●チェーン
たるみが大きいときはすぐに調節をしてください。走行時にチェーンが外れるおそれがあり危険です。
●タイヤ
接地面(トレッド)の溝がなくなる前に交換してください。
●ブレーキゴム
溝の残りが1mmになる前に、お買い上げいただいた販売店または修理店で交換してください。

禁止

水洗いはしない

浸水によって電気部品および配線の絶縁が劣化し、漏電など故障の原因になります。

禁止

電動アシスト三輪自転車の発進特性に慣れるまでは、車通りや人通りの多い道で乗らない

●電動アシスト自転車は普通の三輪自転車より軽いペダル踏力で発進できますが、慣れないうちに普通の自転車と同じ感覚でペダルを強く踏み込むと普通の自転車以上に加速するため、驚いて転倒したり、衝突したりするおそれがあります。
●慣れるまでは安全な場所で練習しましょう。
●無理な走行(スピードの出しすぎ、急坂の走行)をしないでください。年齢や体力に合わせた走行をしましょう。

⚠警告

禁止

山岳・河川などでは、絶対に使用しない

ハンドル・フレームなどが折損したり、ブレーキが効かなくなったりして、転倒してケガをするおそれがあります。

禁止

部品が変形したまま使用しない

事故や転倒によるケガのおそれがあります。転倒や衝突により変形した部品は直ちに交換してください。

禁止

凹凸の激しいところを走らない
(歩道の段差や溝、階段など)

●凹凸では
簡易舗装の道では、いたるところに穴があいています。スピードをおさえて通りましょう。

●軌道敷では
原則として入ってはいけません。もし入るときには、軌道敷のすき間にタイヤを挟まないよう十分注意してください。危ないと思ったら、降りて押して通ってください。

●山路では
路面が荒れています。落石にも十分気をつけてください。ガケくずれの危険がありますので、路肩に寄りすぎないよう注意が必要です。凹凸状態の道ではペダルが地面に接触しないよう道を選んで走ってください。

●ジャリ道では
ハンドルがとられ、ふらつきやすいうえ、スリップしたり、タイヤ、リムを損傷するおそれがあります。無理に乗らず、降りて押しましょう。

禁止

走行中ブレーキワイヤーを引っ張ったり曲げたりしない

禁止

急ブレーキはかけない

急ブレーキをかけるとスリップして転倒する恐れがあります。前方に注意して安全走行してください。

禁止

雨・強風のとき

●雨のとき
服装（雨具）を整える。傘を持っての片手運転は絶対におやめください。雨ガッパやレインコートを着るときは、裾が引っかからないように、必ずセイフティバンド、輪ゴム、クリップなどで留めてください。また、雨の日はブレーキが効きにくくスリップしやすいので、ゆっくり走りましょう。

●強風のとき
ハンドルがふらつきやすく、安全に運転できません。降りて押して歩きましょう。

禁止

乱暴に運転したり、アクロバット的な乗り方をしない

フレームや車輪が損傷して、転倒や事故によるケガのおそれがあります。

禁止

夜間・トンネル内・霧発生時など視界が悪いときは、無灯火で乗らない

見通しが悪くなり、衝突や転倒によるケガのおそれがあります。また、第三者から見えにくくなり危険です。ライトがつかないときやリアリフレクタが破損したり、汚れていたりする場合は、押して歩いてください。

注意

お子様が乗られる場合は

ブレーキレバーに指が届いているかどうか確認してください。また、正しいブレーキのかけ方ができるまで繰り返し教えてください。

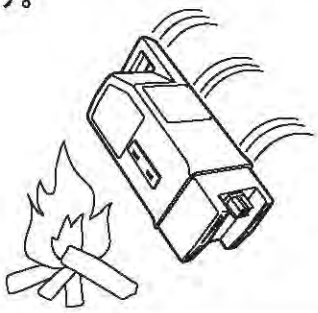
●安全上のご注意（バッテリー、充電器）

⚠危険

禁止

バッテリーを火中に入れたり、加熱したりしない

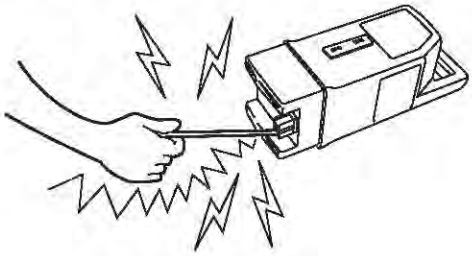
液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。



禁止

バッテリーの端子間を金属などで接触させない

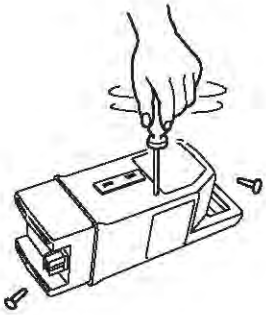
感電、液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。



禁止

バッテリーの分解・改造はしない

感電、液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。



禁止

専用のバッテリーですので、他の機種や他の用途には使用しない

液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。

禁止

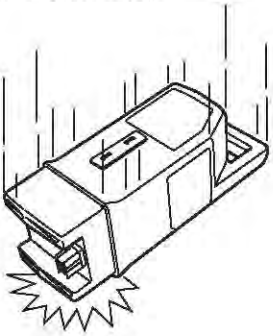
バッテリーケースやバッテリーハンドルが破損したバッテリーは使用しない

液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。

禁止

バッテリーを落としたり、衝撃を与えたりしない

ケースの破損、液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。



禁止

充電器のケース、コードやプラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない

感電、発火、異常発熱のおそれがあります。

強制

バッテリーを充電する場合は専用の充電器を使用する

他の充電器を使用すると発火、異常発熱、故障のおそれがあります。

⚠警告

禁止

充電器の分解・改造はしない

感電、発火、異常発熱のおそれがあります。

禁止

充電器は専用電池(バッテリー)以外の充電には使用しない

感電、発火、異常発熱のおそれがあります。

禁止

バッテリーに水や海水をかけたり、水中に入れたりしない

ショートや異常発熱で使用できなくなります。雨にぬれたときはそのまま放置せずに、乾いた布で水滴をふき取ってください。

禁止

充電器を落下させたり、衝撃を与えたりしない。また、フロントバスケットに積んだまま走行しない

感電、発火、異常発熱のおそれがあります。

禁止

延長コードの使用、他の電気器具とのタコ足配線はしない

感電、異常発熱、火災のおそれがあります。

禁止

電源プラグをぬれた手で抜き差ししない

感電するおそれがあります。

禁止

幼児の手の届くところでは充電しない

感電やケガの原因になります。

禁止

浴室など湿気の多いところや屋外で雨にぬれるところなどでは充電しない

感電、発火、異常発熱のおそれがあります。

禁止

電源コードを傷付けたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしない

コードが破損し、感電、火災の原因になります。

禁止

バッテリーを閉め切った倉庫や自動車内など、高温になる場所に保管したり、長時間放置したりしない

感電、発火、異常発熱のおそれがあります。

⚠注意

禁止

充電中は、身体の同じ箇所を充電器に長時間ふれさせない

ケースの温度が40℃～60℃になる場合があり、低温やけどのおそれがあります。

強制

電源プラグを抜くときは、コードを持たずに、必ず先端のプラグを持って抜く

感電、ショート、発火の原因になります。

強制

充電しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。

強制

電源プラグにゴミや土、油が付着しないように注意する

感電や火災のおそれがあります。

故障かな？と思ったら

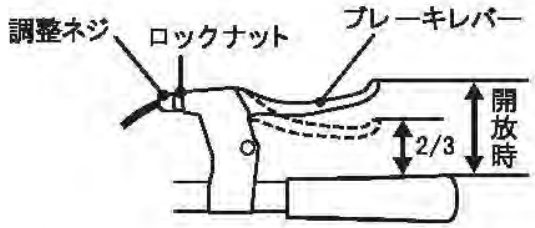
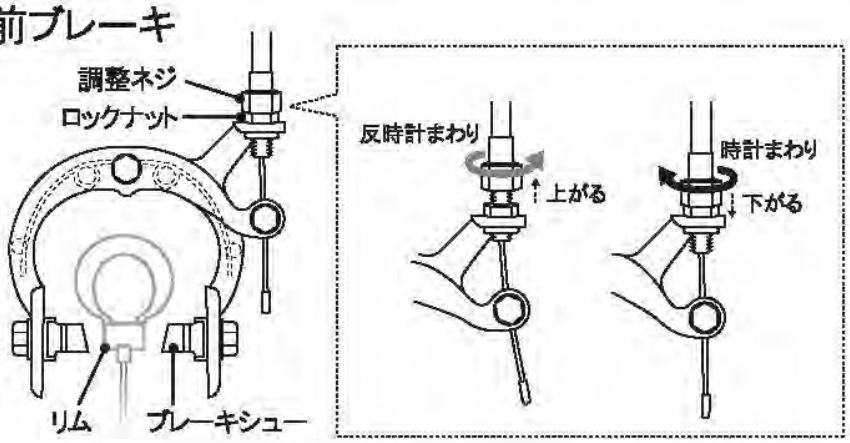
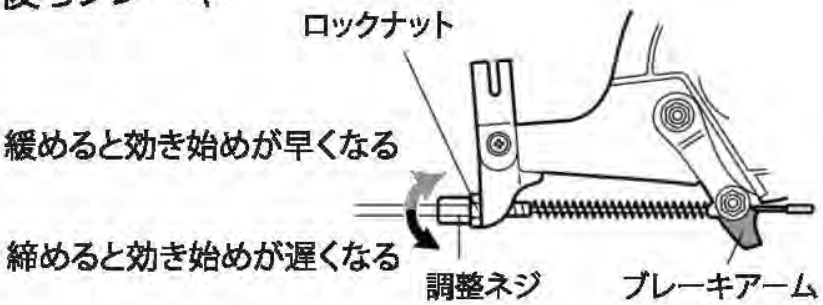
●次の点検をしていただき、それでもなお異常があるときは事故防止のためご使用を中止し、カスタマーサービスにご相談ください。

1. 三輪自転車について

こんなとき（症状）	調べるところ	直しかた
ペダルが重い。	電源スイッチは「入」になっていますか。	電源スイッチを「入」にしてください。
	バッテリーは確実に装着されていますか。	バッテリーの取り付け状態を確認してください。
	後輪を浮かせてペダルを回したときに、スムーズに回っていますか。	ブレーキが効いたままになっていませんか。調整が必要な場合は、自転車店またはカスタマーサービスに修理を依頼して下さい。
	タイヤの空気が減っていませんか。	タイヤに空気を入れてください。
	タイヤがパンクしていませんか。	パンクの場合は自転車店に修理を依頼してください。
走行できる距離が短い。	上り坂の連続走行や発進停止の繰り返しなど、高負荷運転をされていませんか。	走行条件によって、走行できる距離が短くなります。異常ではありません。
	長期保管されていませんでしたか。	バッテリーは自己放電しますので長期間保管するとバッテリー残量が減りますので、充電してください。
	タイヤの空気が減っていませんか。	タイヤに空気を入れてください。
	タイヤがパンクしていませんか。	パンクの場合は自転車店に修理を依頼してください。
電源スイッチを押しても残量表示ランプが点灯しない。	バッテリーが正しく装着されていますか。充電されていますか。	充電のしかた、バッテリーの取り付けを参照してください
バッテリーの取り付けができない。	バッテリー取り付け部などにゴミなどの異物はありませんか。	異物などを取り除いてから、バッテリーを取り付けてください。
急な上り坂を走行中にアシストが切れペダルが急に重たくなる。	バッテリーの残量が減っていませんか。	バッテリー残量が少ない場合、充電して走行してください。

● ギア付車両の場合

変速できなかったり、ガタガタ音がする。	変速機の調整ネジを回しましたか。	自転車店またはカスタマーサービスにご相談ください。
	停車中、グリップを回しましたか。	自転車店またはカスタマーサービスにご相談ください。

こんなとき（症状）	直しかた
ブレーキの効きが悪くなった。	①ロックナットをスパナなどでゆるめます。 ② 調整ネジを回し、ブレーキレバーが開放時の2/3の位置で効き始めるように調整します。 ③ロックナットをスパナなどで締め付けます。  前ブレーキ  → 効き始めが早くなる（ブレーキシューがリムに近づく） ← 効き始めが遅くなる（ブレーキシューがリムから離れる） 後ろブレーキ  上記の調整をおこなってもブレーキの効きが悪い場合は、自転車店またはカスタマーサービスにご相談ください。

2.充電器、バッテリーについて

こんなとき(症状)	調べるところ	直しかた
充電できない	電源プラグはしっかりと差し込まれていますか。 バッテリーと充電器は確実に接続されていますか。	電源プラグをしっかりと差し込み、 充電器にバッテリーを確実に接続してください。
	充電直後ではありませんか。	充電後すぐに充電しようとしても、充電できないことあります。 満充電からの追加の充電はしないでください。 温度が下がってくると充電を開始します。
	周囲温度の高いところ(30℃以上)あるいは低いところ(0℃以下)で充電されていませんか。	バッテリーの内部温度が高いと、 充電できないことがあります。 涼しいところで充電してください。 温度が下がってくると充電を開始します。 温度が低い場合は、室内など暖かいところで充電してください。
	走行直後ではありませんか。	走行直後でバッテリーの内部温度が高いと、充電できないことがあります。 温度が下がってくると充電を開始します。
充電中、異常を感じたら(異音、異臭、煙が出る等)	—	電源プラグを抜いてカスタマーサービスにご相談ください。
充電器やバッテリーが熱くなる。	手で触れられないくらい熱いですか。	充電中は多少熱く(40℃～60℃)なりますが故障ではありません。 手で触れられないほど熱いときは異常です。 電源プラグを抜いてカスタマーサービスにご相談ください。

こんなときどうする？

■転倒したとき

転倒、衝突したら、まず何より道路左側によって自動車を避けます。身体に外傷がある場合は、手当てを終えた後、自転車の状態を調べてください。異常がある場合（自転車を横から見て変形していないか、変速機、ブレーキレバー、ペダルは正常か等）は無理に乗らないで、押してください。必ずお近くの自転車店等で点検・調整を受けてください。

■交通事故

万一、交通事故を起こした場合は、相手が歩行者・自転車・自動車を問わず応急処置のあと速やかに警察に報告してください。事故処理など一切は警察の指示にしたがってください。

■パンクしたら　（空気入りタイヤ）

自転車店で修理してください。パンクしたまま乗りつづけますと、タイヤチューブを破損させます。必ず降りて押してください。

＜パンクの原因は＞

・クギ・ガラス破片などを踏んだ時。
・道路の穴に落ちたり、縁石に乗り上げた時。
・空気圧が少ない時など、日頃の点検や注意深い運転で避けられるものがほとんどです。
・破片や異物等が刺さっているときは、タイヤから取り除いてください。

■異常を感じたとき

日常点検および走行中に異常を感じた時は、すみやかに自転車店で点検・整備を受けてください。またはカスタマーサービスにご相談ください。

■ブレーキの故障やブレーキワイヤが切れたとき

すぐにお近くの自転車店等で修理してください。
ブレーキが効かない状態での走行は大変危険です。必ず降りて押してください。

■廃棄する場合

自転車本体、部品を廃棄する際は、各自治体の指示内容に従って処理してください。

防犯登録について

●防犯登録は，お客様には大変お手数をおかけいたしますが、お客様の最寄の防犯登録所（自転車販売店等）にて登録の手続きをおこなってくださいますよう、お願い致します。

①防犯登録手続きは利用者と車両を、実店舗（防犯登録所）で確認しての登録が原則です。
②防犯登録は地域別の登録となっています（防犯登録シールには登録地区名が刻印されて交付されます）。詳しくは地域防犯登録協会までお問合せください。

お持込での防犯登録には下記の物が必要となります。
①自転車本体
②自転車保証書（裏面）
③登録者本人確認証（免許書・パスポート・健康保険証・住民票など）
④ご購入証明※

●ご購入証明に関しては、弊社製品の保証書にご販売店の押印がございましたら代用可能です。または購入時の領収書（支払いを証明できるもの）、お届け時の配達送り状控えなどをご持参ください。

●盗難にあった場合に捜す手掛かりになりますので、車体番号を本書に記入しておいてください。

●盗難にあった場合には捜す手掛かりになりますので、車体番号を本書に記入してください。

●バッテリーキー紛失など注文時に必要となりますので、バッテリーキー番号も　本書に記入してください。

TSマークについて

この自転車は道路交通法令に定められた基準に適合したことを明らかにする国家公安委員会の型式認定を取得しており型式認定済TSマークを貼付しています。

●工場出荷時に添付されているTSマークには保険は付帯されていません。
●点検整備済（保険付）TSマークは店章を掲げた自転車安全整備店で取り扱っています。

	型　式
	●●●
駆動補助機付自転車 形式認定番号	交N●－●
普通自転車 型式認定番号	交A●－●

品質保証規定 ※品質保証書をご記入の前に必ずお読みください。

1.保証修理を受けるための手続き及び条件

保証修理をお受けになる場合は、自転車と本保証書を、お買い上げ店またはカスタマーサービスへ、ご連絡あるいはご持参いただき、保証修理をお申し付けください。(尚、運送業者による引取り・配送を行う場合もございます。)
本保証書の提示がないときは保証修理をお受けできません。

＊本保証書の字句等を使用者が書き換えた場合は無効となります。
＊ご贈答・ご転居および他に譲渡する場合は、販売元またはカスタマーサービスにご相談ください。
＊お買い上げの日から２ケ月以内に点検をお受けください。以降年１回定期点検整備をお受けください。定期点検・調整は有料です。
(尚、当社カスタマーサービスで定期点検をお受けになる場合は、別途配送料が必要になります。)
＊この保証書は日本国内で使用される自転車で、車体番号の刻印があるものに適用されます。海外に持ち出す場合は、その時点で打ち切りとなります。(This warranty is valid only for JAPAN.)
＊出張修理は行っておりませんのでご了承ください。
＊保証修理に関するお問い合わせは、カスタマーサービスにご相談ください。

2.保証できない事項

(A) 次に示すものに起因すると判断される故障は保証対象外です。

1. 取扱説明書に従わない使用、取扱不注意(乗車定員、最大積載量などのオーバーならびに警告・注意・禁止・強制等厳守事項の無視など)による場合。
2. 衝突・転倒・道路の段差等への乗り上げまたは溝などに落ちて生じたもの。
3. 法令の違反行為により生じたもの(二人乗り、最大積載量オーバー・夜間無灯火等)。
4. 保守・整備の不備、または間違いにより生じたもの。
5. 当社が指定する定期点検調整を実施しなかった場合。
6. 使用者が構造・機能を改造または変更したために生じたもの(当社で設定した部品以外を使用した場合。)
7. レース・ラリー・トライアル・練習等の酷使および、一般に自転車が走行しない場所での走行(道のない山岳ツーリング、土手の傾斜面等)により生じたもの。
8. レンタルサイクルなど不特定多数で使用される場合。
9. 地震・落雷・火災・水害・公害・その他人災・天災・地変によって生じたもの。
10. 手入れ不十分。保管場所の不備および時の経過により生じた不具合 (メッキ・塗装・カラー部品の自然褪色・サビ)、およびプラスチック部品等の自然褪色。
11. 部品の通常の磨耗または疲労と認めたもの(タイヤ・チューブ・ブレーキ用ゴム等のゴム類)。
12. くぎ・ビン・ガラス・切削くず・鋭利な石ころ・リム打ち・いたずら等で生じるパンク。
13. 一般に機能上問題のない感覚的現象(音・振動)。
14. ペダルの取り付け不備による故障。
15. 使用中に発生した塗装傷・フレームなどの変形。

(B) 次に示すものの費用はお客様のご負担となります。

1. 保証対象外部品、およびその交換費用(ブレーキゴム、ワイヤー、タイヤ等の磨耗による交換等)。
2. 点検(定期点検を含む)整備、清掃等の費用。
3. 本保証書に示す条件以外の費用。
4. 本製品の故障に起因する付随的費用(本製品を持ち込むために要した費用,修理期間中における代品費用等)。

(C) ～保証修理対象外部品～(次の交換修理はご使用者負担)

タイヤ・チューブ・スポーク・ブレーキゴム・パット類・グリップ・フラップ・フレームポンプ・口金・カゴ・バッグ・バルブセット・サドル・サドルポスト・ドレスガード等の付属品・ペダルゴム・トゥクリップ・バーテープ・エンドプラグ・リフレクター類・ハブキャップ・ベル・ブレーキワイヤー・ギヤチェンジ用ワイヤー・ワイヤー取付金具、コード類・ダイナモゴムローラー・荷台・チェーンカバー・スタンド・カギ・バックミラー・乾電池・電装品・電球・レンズ・工具・小ネジ・ナット・スプリング・磨耗品および疲労品など

3.保証機能部品について

保証期間経過後でも、性能を維持するための保証機能部品が必要な際は、カスタマーサービスにご相談ください。生産中止になった場合は代替品での対応になる場合がございます。予めご了承願います。

4.保証規定の変更について

当社は、お客様への事前の通知およびその承諾なしに本規定の内容を変更できるものとします。この場合、保証書の提供条件は変更後の規定のものとします。なお、変更後の規定については当社のホームページにより通知するものとします。

お問い合わせは下記カスタマーサービスまで

サポートセンター

TEL：042−686−3645

■定休日：土、日、祝祭日、当社規定日
■営業時間：10:00〜17:00
※時間帯によっては繋がりにくい場合がございます
※番号は間違えの無いよう、よくお確かめの上
おかけ頂けますようお願い申し上げます。

お願い

●安全のため、ヘルメットの着用をおすすめします。
●万が一の事故に備え、対人・対物賠償保険に加入されることをおすすめします。
●必ず、（自転車）販売店等で防犯登録の申請手続きをおこなってください。

この商品はリチウム電池を使用しています。リチウム電池のリサイクルにご協力ください。
商品の仕様、その他の変更により、この取扱説明書の内容やイラストと実車が異なる場合がありますがご了承ください。
この商品を使用できるのは日本国内のみで、国外では使用できません。